

第1回 北陸新幹線加賀温泉駅駅舎コンセプト 検討委員会 議事録

日時 平成27年7月15日(水) 10:00～

場所 アビオシティ加賀 研修室2

出席者

水野一郎委員長、高山純一委員、竹内和良委員、丸谷朱美委員、長谷川清委員、古場田良郎委員、師池敬子委員、高橋雅憲委員(代理)、村治芳昭オブザーバー
事務局：加賀市建設部 眞田部長、高本次長、新幹線対策室

1.開会

挨拶

副市長あいさつ

委員紹介

資料1.名簿参照

2.報告説明 資料2,3,4 参照

- (1) 北陸新幹線(金沢敦賀間)について
- (2) 加賀温泉駅及び周辺の状況
- (3) 関連計画
- (4) 新幹線駅舎デザインコンセプト事例紹介

(水野委員長) ただ今、事務局から概要についてご説明いただいたのですが、何かご質問、ご意見等ございましょうか。

(高山委員) 15年前に駅前広場の整備は一応終わっているということですが、今回の新幹線整備に合わせて、多少リニューアル的なことも検討しているのかどうか。それだけの予算が加賀市にあるのかどうかということですね。そこはどうなのですか。大屋根は土地に少し引っ掛かるので、何らかの形で修繕するのか、やり直すのか、何かは要ると思うのですが、それ以外のところも含めて、どうなのか。

(事務局) 実は検討事項として、その辺も本委員会でも検討したいと思っているのですが、市の方針としましては、まずは基本的な考えとしましては、できれば鉄道・運輸機構さんからの補償の範囲内でできれば復旧したいという。現状。といいますのは、今の駅前広場につきましては、新幹線の駅舎ができることを考慮した駐車スペース等の配置となっているのですが、ただ、後でご説明をする予定だったのですが、建設工事中は全てこの辺りは仮設工事の範囲内ということで、まずはこちらの広場につきましては仮駅舎ができることになっていまして、ほとんどもうこの駅前広場は使えないような状態になります。更地までの状態になりますので。

これはこの後の検討で言おうと思っていたのですが、それがどのような形で復元するか

は、検討委員会の方でまた検討していただこうと思いますし、市の予算としましては、せつかくできる新幹線の駅舎ですので、駅舎と合ったような駅前広場に整備しないとイケないとは考えています。ただ、まだ予算はこれからのことですので、できるだけそういった委員会のご意見を反映したような駅前広場、駅舎としたいと考えています。

(高山委員) 分かりました。再リニューアルの可能性があると理解したのですが。

(事務局) そうですね。

(高山委員) どっちみち壊してしまうということですね。

(事務局) そうですね。ですので、またどういった形に。皆さんのイメージ等があれば、それを反映したような駅前広場にしたいとは思っています。

(高山委員) はい、了解しました。

(水野委員長) その他に何か。どうぞ。

(古場田委員) 全体のレイアウトなのですが、既存の広場とかをできるだけ生かしたいというのは分かるのですが、加賀温泉のこの駅ができた時点から、非常に何か景色も悪い、ロケーションが悪いということが言われていました。例えば、福井方面に 100m とかこれを移動することはできるのですか。アビオシティのバックヤードがボーンと迫ってくるような場所に建ってしまうのですよね。何というか、極めてコンクリートの面がボーンと見えてくるような駅になってしまうので、それを避けるための工夫。多分それはアビオシティというか、平和堂さんは民間の企業なので、建て替えるとかそういうことは要求できないと思うのですが、何か非常に景観としてはよろしくないなと思っていまして。例えば、見えないぐらいにものすごい高階にするとか、あるいは福井方面にずらして駅舎を造るとかという可能性はあるのでしょうか。

(村治オブザーバー) 私の方でよろしいですか。現在の計画ですと、この点線で描かれているところが、新幹線の枠といいますか、ラインなのですが、ちょうど点線が広がっている部分が駅舎の中心部になろうかと思えます。ですので、そこを右左といいますか、そういうことは今の段階ではちょっと難しいのかなというのが。

(古場田委員) では、劣悪な環境がば一っと前に広がっても見えてしまうわけですね。新幹線でせつかく着いたのに、いきなり汚いコンクリート面が見えるという駅になる可能性が高いと思います。

(村治オブザーバー) 駅舎部は、先ほど事務局の方からも、今回の金沢開業までの事例のご紹介がありましたが、駅正面はいろいろその地元の情景を取り入れたり、性格を取り

入れてみたり、そういった形で正面は何というのでしょうか。デザインと。

(古場田委員) もちろん正面はいいですが、すごく長い距離がありますから、恐らく 3分の1ぐらいは死んでしまうのではないかと考えています。

(村治オブザーバー) 周りも、そうですね。両側が、上が上屋と言っていますが屋根、その面は同じくデザインをされているようになりませんが、おっしゃっているのは、その下ということでしょうか。

(古場田委員) 下、邪魔なのは平和堂の建物ですよ。

(村治オブザーバー) ああ。

(古場田委員) それともものすごくダブって、せっかくきれいな駅ができようとしているのに、何かガラクタが前にあるような状態になる。劣悪な色彩環境というか、あり得ないですよ。そんなものと接近して駅が建っていいのかという話です。それだったら、ずらしてダブらないようにするとかという配慮はできないのかなと思いますけれど。

(村治オブザーバー) そうしますと、ちょっといろいろご意見あると思うのですが、今の、先ほどから出ている駅前広場というか、そういうところも全体の整備を完全にし直さなければということになるのでしょうか。

(古場田委員) あまりけちったことをやると、ろくでもないことになるような気がして。どうせリニューアルするということになると、タクシーやバス乗り場、ルートなども変更せざるを得ないので、それだったら全体に、この図で言うと左の方にずらしながら再構築するのがいいのかなと。

(水野委員長) 私も関連でお伺いしたいのですが。まず、これはこの軸線に対して少し傾いていますね。これはもう決定なのでしょう。

(村治オブザーバー) 決定だと思います。

(水野委員長) そうですか。

(村治オブザーバー) はい。

(水野委員長) それから、今お話しになった、ここが中央のコンコースができる場所ですね。それが今、この位置にあって、少しこちらに、それこそアビオシティの方に近寄っていると。これは少しこうすることは全く不可能なのかという、この二つの点を確認したいと思います。前提条件としてかなり大きいものですから、可変性があるのか、全くな

いのか。

(村治オブザーバー) ふれているのは、多分前後の線形とか、少し大きいところがございましてということと、若干今、先生からこれがずれていると。土木の関係ははっきり分かりませんが、既存のいろいろなものがあって、それとの関連でこの位置に決まったのではないかと、今、認識してございますので、もし他にもいろいろな要素があれば、また持ち帰って確認はしたいと思いますけれども。

(水野委員長) そうですね。何らかの理由で、この角度がずれたり、中心が少し寄ったりしているのだと思うのです。それがはっきりして、どの程度まだいじれるのかどうか。ちょっとお帰りになっていていただいて、調べていただけたらいいなというふうに。今の古場田さんの意見も含めて。

金沢だけではなくて、私はたまたま上越妙高、高岡もやってまいりました。そのときもやはり運営機構さんといろいろ議論しながら、可能な範囲を検討していただいています。もちろん不可能なこともございますので、可能な範囲を検討していただいています、そんな中でお互いにいいものができたなと思っている部分もありますので、ぜひ先ほどの点をよろしくお願いします。

(村治オブザーバー) 確認したいと思います。

(長谷川委員) 今の古場田さんの意見から言うと、最も大事なことです。どこも全然触れないのか、小さな駅舎だけを考えているのか、周りの広場のところがどれだけ動かせるのか。基本的なそこが大事です。そこは可能か、不可能かというのを頭からしっかりしないと、考えるのが無駄になります。前提としてはぜひ必要ですね。お願いします。

(竹内委員) 商工会議所の都市政策委員会でアンケートを取ってあるのです。随分いろいろな方面から意見をたくさん頂いています。一番多いのは、白山の朝日、夕日が見えるようにという意見で、ものすごく多いのです。だから、今の古場田先生の話ではないですが、ホーム上屋を50mぐらいちょっと。本体、エスカレーターとかは動かさなくても、上屋を大阪方面にずらすとか、広場は動かさないで。そんなことも可能なのかなと。検討していただけると、随分変わるかなと思います。先ほど平和堂が大変邪魔だという話がありましたが、白山という方向でいくともろかぶっているのです。整備機構の内規で、駅舎はもうほとんど向こうも大体同じ駅舎ですかね。基本の格好は。

(村治オブザーバー) そうですね。真ん中に、いわゆる駅部というのでしょうか。あと、上屋の方が両サイドにということですね。

(竹内委員) そうですね。だから、乗り降りには少し不便になるかもしれないけれど、50mぐらいセンターを動かすとか、ホーム上屋に。そんなことができれば、駅前広場まで動かさなくてもいいかなと。加賀市はなにせ「お金がない、お金がない」といつも市長を

先頭に言っておいでますから。ある資源の中でうまくみんなが思うようなことができれば、より現実的にいいかなと。

(水野委員長) 今おっしゃったのは、この中心をもう少しこちらに持ってきた方がいいよという意味ですか。

(竹内委員) いや。駅のエスカレーターなど主要な部分はそのままにして、ホーム上屋を。

(水野委員長) 白山の見える方がこちらにする？

(竹内委員) ホーム上屋をずらすという。ホームの長さを、糸魚川方面 50m なりを縮めて、大阪方面に 100m ほど延ばすという。そうすれば、白山が見える一番・・・。

(水野委員長) その方向というのはどちらですか。こちらへ動けという意味ですか。

(竹内委員) そうです、そうです。

(水野委員長) そうすると、先ほどのこれをこちらへ持ってくるということですか。

(竹内委員) それまで動かすというと敷地とか用地買収とかいろいろなものの絡みが結構負担になって摩擦が大きくなりますから、ホームでしたら買収する予定ですからいいかなと思うのですが。

(水野委員長) もう敷地については取得済みなのですか。大体この辺は。

(竹内委員) これからなのでしょうか？

(村治オブザーバー) これからというか、ほぼ当たりはついているのではないかと思います。それから、あと 1 点。これも駅本屋を少し右なり、左なりに動かせればというお話もあったのですが、いろいろ功罪がありまして、今のレイアウトですと、在来との乗り換えといいますか、そういったものには非常にほぼ同位置というのでしょうか。それを、今度、右なり、左なりということになりますと、やはりまた在来とのアプローチの関係が一つネックになるのかなというのもございます。

(古場田委員) 在来線と新幹線って、私は乗り継ぎはほぼないと思っているのです。そういう使い方をされる方は、あまりいらっしやらないと思う。

(村治オブザーバー) その辺もいろいろ議論があることかなとは思いますが。

(師池委員) 誰のために造るのかというところをきちんと決めないと。やはり加賀市として、観光市ですよ。という、やはり来たお客さんにどういう風景を見せたい、何をしたいのかということが言えるようなコンセプトをまずしっかり持っていないと、予算なども大事だとは思いますが、「こう決まったものだから、これでやろう」と言って残念な結果になったりというよりも、少しだけなぜ中心に広場があるのかということと考えたら、別に中心に広場はなくてもいいのではないかと。ここはやはり観光で賄っている、日本はそうなんですということになったので、在来線が不便、それもあると思いますが、やはり風景・光景というのは絶対に外せないかなと思うのです。だから、なぜこんなところに広場があるのかということも、その代わりにこの光景を見てください、風景がきちんと取れますということが言えれば堂々とそうしてもいいのではないかと思います。

(水野委員長) おっしゃるとおりですので、その辺は逆に言うと、みんなで固めていきたいと思います。何のために、誰のために、どんな風景でということ、固めてまいりたいと思います。今、古場田さんなどからご意見を頂いた、その前提としての枠組みの問題を議論していただきたいと思います。その他に何かございますか。はい、どうぞ。

(丸谷委員) 今、師池さんがおっしゃいましたが、実際にこの駅を使われている方にとって、駅を降りて次のどこそこへ行くところにあまり遠いとか、回り道していかなければいけないとかという不便になるべくないようにできたらいいなと思います。それによって、広場の位置がどんなものかちょっと分かりませんが、私はあまり横に行くよりは割と目の前であって、そこから白山がきれいに見えるような形であるといいかなと思います。

(竹内委員) 今の駅舎の位置はきっと白山は全然見えません。3階建てか、4階建てにするか、下駄をだいぶ高くして博多の駅みたいにスロープの先みたいな感じにならないと見えません。

(丸谷委員) 見えませんね

(竹内委員) 見えません。平和堂には申し訳ないのですが、邪魔です。

(古場田委員) 平和堂より高い位置に造らないといけません。

(丸谷委員) 高いですね。

(竹内委員) 高いですから、全然見えません。

(丸谷委員) 行って歩いてみて、広場を通り過ぎた地点では見え*にくい(00:51:24)*。

(竹内委員) 今のところ、大阪よりに行かないと見えません。今の位置からはまるで。

(眞田部長) 委員長、すみません。これは次第の3番目の「委員会における検討事項について」というので少し事務局でまとめてありますので、そちらの方を説明。

(水野委員長) そうですね。だんだん何を検討したらいいかという次の方へ。皆さん、たくさんいろいろ。

(眞田部長) 思いが。

(水野委員長) 思いがあるから言っていますが。

(眞田部長) 見識の高い人ばかりなので、格調高くいってしまうと。

(水野委員長) いや。格調高くいってもいいのではないかと思います。では、少し先へ進ませていただいて。では、よろしくをお願いします。

3.委員会における検討事項について

資料4参照

4.意見交換

(水野委員長) ありがとうございます。先ほどから少し検討に入っていたのですが、今、この検討事項の中でいきますと、25ページの「①新幹線加賀温泉駅のデザインコンセプトについて」が一つ目、27ページの「②駅前広場の施設の更新について」が二つ目、28ページの「③駅南北間の連絡性について」が三つ目です。どれからでも結構でございますので、議論してまいりたいと思います。

私は比較していろいろやりますので、分かりやすくお話ししたいという部分があります。28の図を出していただいて。これを見ていただいて、申し訳ないのですが、17ページ、金沢駅が出ていますが。そのままいい。

金沢駅の場合は、連続立体交差化事業が済んでいて、在来線が上がってしまっています。だから、下はもうつつるなのです。自由通路が。だから、駅東広場からコンコースを通過して駅西へ行く。要するに、金沢をずっと歩いて通り抜けられるようになっているわけです。しかも、新幹線の高さとは在来線の高さの間で行き来ができるようになっています。そこで上下もできるという形になっていますのであまり問題ないのですが、実は在来線と新幹線がくっついていまして、在来線のために新幹線の駅のホームが真っ暗になってしまうのです。黒い陰が入って。それで、しょうがないので、市民が提案して、この屋根を持ち上げようという形で屋根を持ち上げて、重なっている部分にウエーブを作ったのです。それで、横から光が通る、真ん中も光が通るという形で、明るい新幹線のホームをお願いして、運輸機構の方でそれを採用していただいて、他の新幹線の駅は全部真っ暗なのですが、金沢駅だけはウエーブを描き、弱点を逆に長所に切り替えたことがございます。

それから、22ページに上越妙高駅が載っています。これは在来線を引き込んだのですが、少し低くて、これが少し上がっていて、この間に自由通路が通れたのです。だから、在来

線の上で新幹線の下というのが道が通るようになっていて、通るようになったら、そこから広場へ降りるのを上越市が造ったのです。JRではなくて上越市が造ったわけです。ここにある白い建物など、上下する昇降施設は、市の広場の中の施設として造ったのです。都市施設です。

ですから、高岡や富山、黒部などには駅がバーンとあってその前に何も無いのは、そのせいです。金沢駅の前にあるのは単に広場の屋根だけです。ですから、17ページの写真は、広場に屋根がかかっているだけです。18～21ページは何もないのは、その辺です。22にあるのはその関係です。ですから、新幹線と在来線と駅前広場をどう造るかというのが、敷地条件でほとんど決定的になっているわけです。

先ほど村治さんからご説明があったように、これが在来線で、これが新幹線で、この間の行き来の問題があるので、ここにいろいろ決まっている条件があったり。だから、この角度が少しずれている。これも何かの条件があって決まってきたのだと思うのですが、その辺がどの程度可能なのかは一番大事なところでございますので、それはご回答いただきたいと思いますが。比較的決定事項になりかねない強さ。

もう一つは、駅によってだいぶ違うのは、先ほど師池さんから話がありましたが、駅を降りてバスやタクシーや自家用車などの2次交通に乗り換える。それが一番大事だというのがほとんどの駅的设计です。だから、京都の駅を降りても、コンコースを出るとすぐ、もう車広場です。大阪の駅を降りてもそうです。富山の駅を降りてもそうです。金沢はそれを拒否したわけです。金沢は人間中心でまちへずっと抜けるのだと。左右で交通処理すればいいというので、駅前広場も用意して、その駅前広場におもてなしの傘をさそうということでドームを造ったり、あるいはゲートを造ろうということで鼓門を造ったりしたわけです。

だから、そのどちらへ行くかというのは非常に大事です。駅を降りて、人間を遊ばせておくというか、歩いたまま、例えば金沢で言うと今それが大成功しています。近江町まで歩かないと思っていたのが、東京の人たちはみんな歩いてしまうのです。ずっと歩いていく。そうすると、駅と近江町間の店がこれから面白くなってくる。近江町まで行ってしまうと、今度はひがし茶屋街まで歩ける。だから、みんな歩いてしまう。あの道を造ったおかげで、人々をここへ導き出したわけです。

ただ、それが加賀市に合うかどうかは、これから皆さんに検討していただきたいのです。要するに、2次交通に乗り換えるのが大事なのか、人間を歩かせることが大事なのか。これは非常に大事なところなんです。それは駅の構造によってほとんど決まってきます。皆さん、この駅の事例を見るとそういう構造が決まってくる。その辺がコンセプトをどうする、駅前広場をどうするという話にもなろうかと思えます。

それから、上越妙高では、妙高山がばーんと見えるのです。それが見えるラウンジを中2階に大きく取っているのです。これは行って見ていただければ分かるのですが、ものすごく人気でして、そこにみんな座ってぼーっと見ているという風景があるのです。ですから、白山が見えるというのは非常に大事な風景なのですが、白山を見せることができるかというのは物理的に決まっていることですので、非常に大事です。

それから、イメージの話ですが、17ページの金沢は、先ほど言ったようにおもてなしなのですが、県庁所在地で日本一年間雨量が多いのは金沢なのです。そこに観光客がたくさん

ん来るので、傘をさしてあげようということで、この傘と地下広場と鼓門で約70億円のお金が掛かったのですが、「こういう理屈です」と言ったら、市の方が、議会ともども、市長さんともども「やりましょう」という形で大投資をしたわけです。それが成功したのです。そういうのはこういう委員会からどれだけの案を出して説得力を持つかというのが非常に大事だと思っています。金沢の場合も、委員会からこういう案を出して、説得力を持って、何回も議論しました。「金沢だからガラスドームなんか嫌だ。これに瓦屋根を載せろ」というのが出てきました。「うわあ、瓦か」と思ったのですが、瓦、あとこういうモダンアートの議論の中で、「金沢は古都ではない」と。平均年齢都市。要するに、戦国時代に生まれた都市ですから、仙台も伊達正宗で、熊本も加藤清正、上越も上杉謙信、加賀は前田利家によってというように、いろいろな時代に生まれた都市。そういう平均年齢都市だから古都ではないのだけれど、江戸もある、明治もある、大正もある、昭和もある、平成もある、そういう歴史的な重なりだから、伝統を守ることと新しい時代をつくること、この二つがないと駄目だという議論の中で、新幹線時代は全く新しいものを迎えよう、つくろう、後ろを振り返るのはやめようというので議論して、新しいものをつくろうというのが勝ったというか、そのとおりになってガラスドームとなったわけです。

だから、そういうふうにして、議論をこの会で随分とやってまいりました。だから、そういう議論を重ねていきたいと思いますが、そのときにコンセプトや、先ほどおっしゃった何をやりたいかというのは、皆さんの意見だと思う。それに対して、われわれの学者の方とか県の方とか、あるいは運輸機構さんの方とか、どうやってそれを解決していくか、乗り越えていくか、そんな議論になると思います。ちょっと追加させていただきました。

(長谷川委員) 今、いろいろな特徴のある駅をご紹介していただいて、車が先、人間が先という具合に指摘していただいたのはよく分かるのです。加賀温泉駅、加賀でなければならぬものは、皆さん、ちょっと気を付けて見てください。実は、私は今、美術館にいますから、前が美術館なのです。こういう田舎ですから、最近、駅へ着いてお客さんが、すぐ第2次の乗り物に乗る機会がないのです。チャンスがないのです。迎えに来ている旅館の車があればそれは別として、バスはものすごく少ないでしょう。だから、非常に待ち時間が多いです。その待ち時間で、うちの美術館へ本当に足を運んでくれるのです。お客さんが来るのです。最近増えました。それはやはり駅前の広場の使い方で、私は随分市の方をお願いして、美術館と平和堂でなくて、駅と平和堂でなくて、駅と美術館というアプローチを考えてほしいと申し上げたのです。

だから、今回これができるとしたら、この駅の構造の中に、駅舎の広場の中に、いかに。もちろん病院も近いけれども、やはり美術館という文化の伝統になるものが幸いにして前にあるのだから、それをうまく使うという案も一つ頭に入れてほしいということです。これは他の駅にはありません。どこへ行っても、北陸をずっと見ても、前に美術館があるまちはないです。金沢は前に出ると音楽堂があります。これは一つの魅力です。そういう生かし方をするとということも考えてほしいなと思います。

(水野委員長) 今、長谷川委員のおっしゃったことは、今度の範囲の外になるかもしれませんが、駅周辺整備とあって、駅前広場と駅周辺があります。その周辺をどう造るか

いうことの、公共が投資をするのか、民が投資をするのか、あるいは三セクみたいな投資をするのか分かりませんが、投資が起こるのか起こらないのか、その投資まで考えてこの整備計画を立てるのか立てないのか。これは非常に大事だと思います。高岡も糸魚川も上越も、駅を整備するだけでお金がいっぱい、公共は投資が行われませんでした。だから、なかなか難しいと思います。だから、加賀市でも何かある施設をこの駅前に持ってきたい、持ってくるという計画があればぜひ取り入れたいのですが、その辺についても要望事項は出してもいいかと思いますが、どうやって引き込むか。

(高山委員) 非常に難しい問題をたくさんはらんでいて、こういう物理的な条件が決まっている中でどうするかということを検討していかないといけないと思っています。乗降客の内訳はどうなっているのでしょうか。1日約2000人の客だということなのですが、そのうち地元利用がどれぐらいで、地元以外といったらほとんどが温泉への客かなと思うのですが、観光客みたいなものがどれぐらいか。その比率によって駅の利便性をどう考えたらいいかというのをきちんと設計しないと、見た目は非常にきれいになって、白山の眺望もすごくいいのだけれど、利便性が悪いということになると、そこはもうひとつ駅の評価としては下がってしまうと思うのです。だから、バランスが一番大事です。

そのときに、県外、県内でも温泉へ来る方の利用が圧倒的に多いということであれば、それを前提に考えなければいけない。そうすると、各温泉郷へは歩いては行けないですから、バスかタクシーかお迎えかということになると思うのです。広場が今あるところが前提であれば、広場までのアクセスをきちんと考えておかないといけないのかなと。特に最近、ポストンバッグ1個で来る客よりは、ごろごろ引いてキャリーバッグを持ってくる客の方が温泉客でもほとんどですから、その客のことを前提に、新幹線を降りてからどう歩いてもらうかということを考えないと、恐らくいけないと思っています。

もちろん、白山の眺望は一つの売りですから、やはり何らかの形で考えないといけないのですが、先ほど水野先生が言われたように、妙高山が見えるような、駅からそのまま見えないのだったら、見えるところを造ってやればいい。待ち時間もあるという話でしたから、そうすると、その待ち時間には見えるところを別途造るというのも一つの案かなと思うのです。それは駅の方で造るのか、言ってみれば市側で造るのかというのは、これから検討すればいいとは思いますが、実際問題。

在来線との乗り継ぎの問題もどう考えるかです。先ほどはほとんどないという話でしたから。ほとんどないというのは、恐らく加賀市民はもう新幹線を利用しようとする、ほとんどが車で来るのかなと。ただ、本当にそれでいいのか。例えば大聖寺の隣の駅や他からも来るときに、全部車でアクセス対応でいいのかどうかということちょっと考えておかないといけないのと、もっと言うと、加賀温泉駅へ新幹線で来た客が全部温泉へ行く客ではないかもしれない。大聖寺を見たいとか、塩屋の方を見たいとか、そういう古いまち並みに興味があって見たいという客もいるかもしれない。そうすると、やはり在来線を乗り継いでということもあるかもしれません。

そこは実際問題、内訳が大事かなと思っています。そういう調査がなされているかどうかは分からないのですが、そこはきちんと押さえておかないと。これだけ条件が厳しい駅、在来線と新幹線、それからホームの位置も大体ほぼ決まっているとすればです。そ

れから、駅舎というか、駅広もそれほど触れないとすれば、駅広をごろっとこちらへ移すことができれば別ですが、今の条件では、せっかく整備したところはリニューアルするにしても、場所はあまり変えられなさそうですから。そうすると、それを前提に考えないといけないのかなと思っています。

白山の眺望を考えたときに、加賀市はちょっと不便なのです。全面的に見たときに小松には負けます。小松の方が絶対しっかりと見えますから。そういう意味では、そこをどう考えるかだと思います。路面から見ると白山はなかなか直接見にくいので、本当に見せたいのなら、景観の問題はありますが、眺望空間というか眺望の場所を設計して、少し上がったところで、それこそ平和堂の上からというか、建物の上から見えるような方がいいのかなと思っています。そこは予算との関係などどうするかというのをこれから考えたらいいと思います。

(眞田部長) 今の眺望の点で、私はガレリアという大屋根の上のトップライトの上で、ちょうどホームの高さで、病院ができるので、病院がどれほどどのような形で白山などを阻害するかということでパノラマで写真を撮ってありますので、また次回のときに。確かに平和堂が、白山の方向がちょうど陰になってしまうという状況でした。それを皆さんにご確認いただくような形で、資料は作れますので、用意しておきます。

(竹内委員) いいですか。乗降客は、週末と平日とで随分変わってくると思うのです。観光客は土日が主で、僕はすぐ後ろに住んでいるのですが、普段は学生がほとんどですから、2000人弱もいるというのにびっくりしたのです。そんなにいるのですか。切符の集計で。

(事務局) 切符の枚数で。

(竹内委員) だから、JRに聞けば分かるのですよね。

(事務局) JRの方で。

(竹内委員) どこから乗ってきている人が多いか。

(水野委員長) そこまではなかなか。

(古場田委員) 僕は実は金沢と大聖寺を毎日往復していてヘビーユーザーなのですが、乗降客で言うと観光客はあまりいません。ほとんど通勤客と学生です。だから、これは2000人弱ですが、僕の感覚で3分の2ぐらいは学生と通勤という感じですね。実体感としてね。

(水野委員長) 平日はですか。

(古場田委員) 平日です。これは土日でもそんなに変わらないですね。やはり部活とか

で通っているとか。

(長谷川委員) それは時間帯によるのですよ。

(古場田委員) 時間帯にもよりますか。

(長谷川委員) 私はよく温泉駅に人を迎えにいたり、お客を送ったりします。大体午前10時から午後3時ごろまでは、ひどいのになると午後2時ぐらいになると駅の中はお客さんでパニックになっています。それはどういうことかということ、改札口が二つしかないのです。そこへみんなどっと一緒に降りてくるのです。駅員もまた少ない。ひどいのになると、1人がやっているとはみ出してしまうのです。私は変な話、いつもノックして「1人では駄目だ。1人出なさいよ」とこちらの方が催促して1人出てもらって、お客さんの整理をしたことがあります。それぐらい、時間帯によってはパニックになるのです。確かにないときはないです。だけど、学生がいるのは通勤・通学のこの時間だけです。あとは結構お客さんがいるのです。

この前も、金沢駅から福井へ行くのだという4人組のお客さんに、「福井へ行くなら温泉駅でぜひ降りてください」と言ったら、本当に降りてくれたのです。それでちょっといいところを紹介して、回って見て、それで福井へ行ったのです。今、時間帯によっては結構降ります。

(師池委員) 私は、まれびと交流協議会に入っていて、かがやきという食の方に入っています。今、市の首都圏戦略室から言われて、土日はうちのメンバーたちが駅前でお店をやっています。主に土曜日の午後、日曜日の午前中は観光客がいっぱいです。日曜日の午後になるとかなり少なくなったりするのですが、ツアーでツアーコンダクターがたくさんの人を連れて加賀温泉駅に来るということもあります。でも、やはり土曜が多くなります。

(水野委員長) 今、高山先生や師池さんから出ましたが、これはやはりデータがあるはずですから、乗降客の分析と、それから平日と日曜日、祭日、あるいは季節によって何かあるものかどうか含めて。新幹線が来たらだいぶ変わりますが。

(高山委員) 変わりますね。随分変わる。

(水野委員長) 変わりますが、一応調べておいていただいて。あるいは、何か新幹線の予測があれば出していただいて。

(事務局) はい、分かりました。

(水野委員長) そこはちゃんとJRがお持ちでしょうから。

(事務局) はい。

(水野委員長) 私から一つ質問です。27ページの「駅前広場の施設の更新について」というのは、この駅前広場の範囲はこの範囲しかないという。しかないと言っては変ですが、この範囲だけで考えるということでしょうか。

(事務局) そうですね。ちょっとこの図では分かりづらいかもしれませんが、これよりも下にまだ道路が、この部分に空地があるのですが、ここはちょっと利用できるか、まだ地元との協議もありますので、今、想定しているのはこの現在の道路も含めた駅前広場の範囲です。

(水野委員長) そうですか。上越も高岡も、これよりもっと大きい駐車場広場を持っていて、特に高岡なんかは無料の駐車場を造ったりなんかして、それがいっぱいいっぱいなのです。利用者が、高岡はタダだということで、行って新幹線に乗るせいもあるのでしょうか。そうすると、今度は待ち時間があるから、高岡のショップや観光案内所を思ったより人が結構使ってくれているということが起こってきて、利用客が少ないだろう、30分に1本しか列車が来ないのだから閑散としているのだろうということが、少し変わっているなという風景が出てきたのです。そのことを含めてですが、かなり駐車場を確保してきているのが多いのですが、他の駅と比較してちょっと少ないかなという感じが非常にするのですが、その辺もデータを取っていただいた方がいいのではないかと思います。

(眞田部長) 今、それを危惧してしまして。実は新幹線に掛かるところに、今、タイムズという時間制の600台近い駐車場があります。大体加賀市の方は皆さん、旅行へ行かれるとき、そこに車を止めて、電車に乗って日帰りに行くなり、1泊で帰ってきます。

(水野委員長) これとは別に？

(眞田部長) なくなってしまうのです。ちょうどこの。

(高山委員) なくなるのですね。

(眞田部長) 金沢側に。

(高山委員) 民営駐車場というやつですか。

(眞田部長) 民営駐車場という。それが新幹線に引っ掛かるもので。

(水野委員長) それがつぶされる。

(眞田部長) そうすると、私どももどうやって車で駅へ行こうかなというふうに、逆に悩んでしまう。

(水野委員長) だから、私はこれでは足りないのではないかと思っているのです。

(眞田部長) 敷地がもう限られているもので、それも喫緊の難しい問題かなというふうに考えているのです。

(竹内委員) アンケートでも、地元の人のためにタダの駐車場をもっと増やしてくれ、観光客だけの駅ではないぞという意見がものすごくあります。

(水野委員長) タダというのは曲者でね。ある一部の人に対してものすごく投資していることになるのですよね。

(竹内委員) そうです、そうです。

(水野委員長) 駅前に降りて今度は駐車場ばかりだと、何かさびれている感じが非常にしてしまうのです。なかなか難しいところです。

(眞田部長) 今の一般駐車場は時間制 30 分無料なのですが、1 時間 100 円です。そこへ 1 泊で出張に行つて夜帰つてくると、3500 円ぐらいになるのです。1 泊でそれぐらいになってしまうのです。これは普通ロータリーの駐車料金でも、あまり長時間止めないでくださいということ、そこに 1 万円札が入らなくて、1000 円札しか入らないということ、苦情もあるということも実態としてございます。4000~5000 円も 1000 円札を持っていないという方が多いものです。

(水野委員長) これで駅周辺整備委員会が何かやっても、「駐車場が足りないのではないか。何だ、あの委員会は」と必ずやられますから。やはりその辺も。私はこの図面を見て、ちょっと課題があるなと思っています。

(竹内委員) 地元と市役所の本気度、お金の掛け方。飯山へ行って話を聞いていましたら、あんな小さい市でも 100 億円ぐらいのお金を掛けたという。われわれは新幹線の駅を造るために 100 億円を掛けたと市役所の人が言っていました。どうやって返そうかなと。

(水野委員長) 上越妙高もそのぐらい掛けています。だから、かなり勝負を懸けてきているのが、新幹線の駅です。もう少し言いますと、都市改造したのが金沢と富山です。

(高山委員) 富山ですね。

(水野委員長) 金沢は、駅から東口のあの古いまちしか金沢ではなかったのですが、駅西を都心に持って行って、50m 道路を通して県庁を移転して、軸状の都市に都市の構造を転換したのです。その転換の最終の作業が、今度の駅の新幹線を含めた駅舎改造なのです。

だから、都市改造という 40 年近いストーリーが入っています。富山も駅北にとやま未来というビジネスパークを造って、そこに新しい富山の発展を築こうとしています。それは、実は上越もそうだし、高岡もそうだし、その駅をやることで都市を改造するというプロセスをやっているのです。

だから、皆さんかなりの投資をしています。100 億円とかそういうのを平気で投資しているわけです。金沢というと、いろいろやっていくと、1000 億円、2000 億円楽々行ってしまうのです。そういう投資をずっと重ねてきているわけですから、駅前広場のここにちょこちょこ木を植えたり、池を造ったりしても、どうかなというところもあるので。だから、少し大きな夢を語りながら、可能なところを探していく。

あるいは、新幹線が開通した 5 年後ぐらいではなくて、あと 30 年ぐらいかかってこうしたらどうですかというようなことも含めてもいいと思っているのです。そうしないと、何か駅前のちょこちょこという範囲でやるとどうなのかなという感じはしています。それは、新幹線に懸ける転換の思いというのは、市にとって非常に大事ですので、ぜひそんなことも考えていきたいなと思います。

(古場田委員) 今いろいろどの範囲を変えられるのか、変える余地があるのかなど伺っていると、あまり大きな希望が持てないかなという気もしています。また平和堂さんの話になるのですが、これも動かしようがないだろうし、まさか撤退というのもないだろうし。そうした場合に、今、結構老朽化しているので、恐らく外壁の塗装工事などが入ると思うのです。一回入るとやはり 10 年スパンぐらいでずっとそのままいくと思うので、最近ですとコンビニですらご当地仕様のちょっと控えめなデザインなものも出ていますので、例えば駅側や広場側の公共施設に面するところだけは色を変えてくれとか、そういう要望の仕方が恐らくあると思うのです。

(水野委員長) ありますよね。

(古場田委員) 例えば行政指導とかそういう格好で要望を持っていくとか、そういうことも恐らくタイミング的に発生するぐらいの感じかなと思っているのです。相当はげていますので、恐らく、かなり近い将来塗り替えの工事をやると思うのです。そのいいタイミングを見計らって、それは建設部の仕事ではないからということをおっしゃるかもしれないのですが、その辺は様子を見て調整できればありがたいと思うのですが。

(水野委員長) 金沢は、駅周辺は全部茶系でいってくれということで、ホテルから全部それにしてもらっているのです。タイルから石貼りから。舗道はできるだけ*みかげ
(01:35:06) *を使ってくれとか、それをもう 30 年以上続けているからあのようなになるので、もし加賀市が本気で先ほどの田園都市構想、ガーデンシティ構想をやるのなら、「平和堂さん、壁面緑化してもらえませんか」とか、何か言いたいことは言ったらいいと思います。だけど、加賀市が本当にガーデンシティ構想をやる気がなかったら、要求しても応じてくれないだろうし。だから、そういう本気でやるかとか、ちゃんとしたものをやるかということがあろうかと思っています。

(眞田部長) ちょっと事例は、片山津の総湯。もともと片山津地区はすごくさびれていて、夜行くとソープランドの明かりしかなかったあの場所に、旅館を、*廃屋を(01:35:56) *3 軒壊してそこに建てたのですが、当然前のビルもお化粧直しして、民間の外壁も景観にそうようにということでずっと全部お願いして歩いて、一遍には変わりませんが、徐々にかのやさんもちょうど見えるところで傷んでいた外壁を吹き直してきれいにさせていただいて、ソープランドは自主的に赤い中華料理屋みたいなすごい外壁を黄土色みたいな色に塗られていったということで、やはりその辺は建設部だからしないというわけではありません。景観というものもありますし、ガーデンシティもこちらなので、それも含めて、この駅にける皆さんの思いというのがやはり伝わるのです。そして、だんだんできるとそれもまたいい意味で影響を受けるというか、せっかくだし、それに合わせて何かしましょうというふうに働き掛けるということには行えますので。

(水野委員長) ええ。周りはそういう努力を知っていますので、あれは大変いいことです。やはりそういう力が地域にある、地域が本気だということが分かると民の方も動く。それに対して少し助成をするということはあるといいと思いますけれど。

私は山代温泉の緑化計画を過去やっています、組合のお金でだいが木を植えたのです。そうしたら、建設大臣表彰か何かもらって、1000万円もらってしまって、それでまた木を植えたのです。だから、そんなようなことも、民が動き出すということは、やはりここは観光地ですから、民が動かないと実際良くなりません。だから、そういう意味で一緒に官と民が歩いていくというようなことはこれからも重ねていかなければならないので、平和堂さんの外壁も何か要求していいのだと。だけど、そのとき、こちらの気持ちですよ。こちらでちゃんとやる気だということを示さないで。

ということで、ちょっとこの範囲というのが少し。この範囲だけでどういう設計をするかなんて言われてしまうと非常に困ってしまう。大して呼べないなとなってしまう。逆に言うと、市民や各観光組合、温泉旅館組合などから「何だよ、こんなことしかできなかったのかよ」なんてこの委員会が言われてしまいそうです。

(師池委員) 先ほどの話に少し戻りますが、通路は、在来線の向こう側にも、地下通路でしたか、造るとか言われていたということは、駅裏と言っていいのかな。後ろ側の整備というのはどうなっているのでしょうか。もう赤土のところには何か車が止まっていたりとか、あそこはすごく昭和ですよ。裏側。めちゃくちゃ昭和なあれはどうなるのでしょうか。見えないふうにしてしまうのですか。あそこの駐車スペースはあるのではないのでしょうか。あれは全然民間のものですよ。

(高本次長) 民間ですね。経過だけ。北口の件は、今回の新幹線の駅、ここに現駅ができるという段階から、行政でも何回か検討しています。どんな形で。今、実際ある駐車場は月極めも含めて全部民間の駐車場として、市の駐車場というのはありません。民有地ばかりですので、そこを広場として利用する、併せてまた地下道をどうかするという事は検討していますが、効果などいろいろな面で考えて実際に事業に起こすところまで

はまだ至っていないという状況です。

(竹内委員) 車で海側、山側をつないでもらえると、市民に大変とってもいいことです。松が丘から降りてきた道を少しカーブさせて、ジャスコがある道につないでいくとか。今は本当に不便です。どうやって踏切を渡るか。みんな本当に不便だと。大菅波か、弓波の方へ行くかです。それで、町中の農道を、朝はひどい。ものすごいです。

(水野委員長) この3番目の「駅南北間の連絡性について」も議論してまいりたいと思いますが、かなりお金のかかる、時間のかかる話で、5年後に間に合うのか、10年後にできているのか含めて、検討だけはしないとイケないです。ちょっと高山先生が。

(高山委員) すみません。午後から授業があるので。

(水野委員長) 何か。

(高山委員) はい、最後。今のご議論は非常に大事で、やはり新幹線のインパクトを加賀市全域に広めるためには、表か裏か分かりませんが、今の南口側だけではきっと限界だと思うのです。せっかくですから、北側もうまく使えるように仕掛けておかないと、やはり発展はないと思います。そのとき、どうしても物理的に中途半端な、もう少し新幹線が上に上がってくれるか、在来線も一緒に上に上がってくれていたら、全然問題なかったのでしょうけれど、恐らく在来線が低いから新幹線も高くしなくてもよかったわけなので、そういう意味では、ちょっと不便かもしれないけれど、何らかの形で。私は地下通路で抜くのはあまり好きではないので。いくら電気を入れても、ライトを入れても、陰気くさいですし。だから、本当はここはちょっと段差ができるかもしれないですが、何らかの形できっと南北の通路は最低限要るのかなど。お金が掛かるにしても、まちの発展のために、加賀市の発展のためには絶対必要だというふうに思いますので、ご検討いただければと思います。すみません。ちょっと授業が。帰らせてもらいます。

(水野委員長) 運輸機構さんにもちょっとお尋ねします。この新幹線のホーム高は約10mと書いてありますが、これもほぼいろいろな結果から出てきているのでしょうかね。

(村治オブザーバー) だと思います。

(水野委員長) これを15mにするなんて。

(村治オブザーバー) 多分無理かなと思います。

(水野委員長) その必要性があまりないということですね。

(村治オブザーバー) ええ。もちろん前後の関係ですとか、いろいろな経済性も含めて

こういった形状になっているかと思うのですが。

(水野委員長) それはもう 10m と 15m ではだいぶコストが違いますから。

(村治オブザーバー) ええ。そこだけというわけにも。電車といいますか、新幹線ですので、どうもそこだけと。多分前後ですね。私は専門ではないので分かりませんが、前後相当な。例えば、今、先生がおっしゃったように、5m 上げることになれば、多分前後で相当ないろいろ高さの変更が生じるかとは思いますが。

(水野委員長) だんだん 27 ページの範囲で収まらなくなってきて。さっき、周辺の都市計画の図面がありましたね。

(高橋委員代理) ちょっとよろしいですか。県からまたお話をさせてください。今、いろいろお話やご議論の中で、先生のお話がありました。今の話もありましたが、17 ページの金沢駅の写真を見せていただくと、あとの駅の方はどちらかという駅をメインに写した写真なのですが、金沢駅のところだけ結構引いた写真で写っている形になっています。このとおり、金沢駅はものすごく立派になっていまして、一昨年、昨年もアメリカの旅行雑誌で美しい駅 14 選でしたか。そこにセレクトされたりしていますので、駅のデザインもそうなのですが、やはり広場などを交えて、先ほど平和堂の話もありましたが、見え方がどうなるかということ。次回はまた写真なども取りそろえていただいて、ここまでの鳥瞰が撮れるかどうかは分からないのですが、そういうものも見せていただいて、ご議論していただければいいのかなと思います。

あと 1 点だけなのですが、誰のための今回の駅舎整備かという話もあったかと思いますが、具体的に考えてみますと、12 ページに広場の写真、レイアウトがありました。具体的に誰が優先的に使うかを考えているかということにもなってくるかと思いますが、水野先生ですか。高山先生の方にいろいろデザインを検討していただきました金沢駅の再整備の方に関しましても、皆さんご存じのとおり、前より大変利便性が向上して使われている形になります。

ただ一つ、追加のご意見としてたまに出てくるのが、観光バスの乗り入れが、どちらかという北側の方で少し遠めに置いてあるので、観光客の人にとってはちょっと使いづらいところにあるのではないかというご意見です。金沢駅の西口は、特に通勤の方も使われますし、観光も、いろいろなコースの結節点になりますから、どれを優先するのかというのをレイアウトの中で決めていかなければならないので、その中でどうしてもあのようなレイアウトになったような形になります。

今回この加賀温泉の形に関しましても、例えば観光客をメインにするのであれば、今ある送迎バスの駐車場も含めたレイアウトの考え方等をもう一回シャッフルして考えることもまた必要かもしれないと思っています。例えば観光客をメインにするのであれば、もっと手前に置いて、できるだけ乗降を楽にしてあげるといった考え方もある。そうすると、今度は路線バスが逆に追いやられる、もしくは違う場所に行くという形になりますので、やはりレイアウトが少し限られています。どれを優先していくか。それが誰のための駅、

駅広になってきますが、造り方ということをもた今後この会でご議論していただければなという形になります。

その中で、3点目の話になるのですが、先ほど水野先生のもてなしドームの話もありました。あれはデザインという面もありますが、雨を受けるという意味であそこまで伸ばしてあるという形になりますので、デザインと機能性等も含めて、広場と駅舎をトータルで今後ご検討していただければと思いますので、またお願いしたいと思います。

当然、連絡道路のことも、構造的、物理的な検討も可能かどうかも含めてまた議論していければいいかと思いますが、ご存じの方はご存じかと思いますが、松任駅がつい最近、3月、東西で何となく道路につながったのです。あの辺も割合好評で皆さん使われているのですが。通られた方は分かると思いますが、結構ひねって無理やり造っている道路ではあるので、あそこまでのスペースなり、構造なりができるのかどうかという、あの辺の構造的なことも含めて、また検討していかなければなりません。あそこまでにするのか、歩行者だけにするのか。それによっても変わってきますので、その辺もまたご議論していただければと思います。

(水野委員長) ありがとうございます。非常に大事な話です。あと、どの駅も新幹線で最初に進出してきているのがレンタカー屋です。金沢は今、レンタカー屋が遠くて、不便で、駅西の方でやっているけれど、フル回転でやっていますし、高岡も上越も最初に進出したお店はレンタカー屋でした。そういう意味で言うと、レンタカー屋がこの周りで土地を入手できる条件にあるのかどうかなど、それも含めても検討が必要だと思います。

それから、市はこの中に観光案内所や道の駅みたいな特産品売り場など、そんなものをつくる予定は今のところないですか。

(真田部長) 観光案内所自体は現在駅の中にございますので、その機能は残さざるを得ない。

(水野委員長) その機能は、今度これで消えてしまいますね。一回壊れてしまいますね。

(真田部長) ですから、そこをどこにするかという議論は当然あると思います。

(水野委員長) だから、そういう何か計画している最低限のものでも出しておいていただいた方がいいかと思います。

(真田部長) はい、そうですね。条件として、これはお願いしますという。

(水野委員長) ええ。

(竹内委員) そういう施設の中に市のものとかというのは、機構の方にリース料が掛かってきますね。使用料というのか。何かよその駅を見にいったら、そんな話がありました。

(村治オブザーバー)　うちから要は JR さんに貸し付けなので、JR さんとの間になるか
と思います。

(竹内委員)　JR の方か。

(村治オブザーバー)　最終的にはそうなる。

(水野委員長)　ええ。

(師池委員)　11 ページに加賀温泉駅の構内図があるのですが、これは観光情報センター
があって、待合があって、チャオというのは売店ですか。

(高本次長)　はい。売店ですね。

(師池委員)　売店はある。この売店というのは、今、既存にしているあそこの店とはま
た違うのでしょうか。それは JR？　今、ありますよね、あの中に。

(眞田部長)　ありますよね。

(師池委員)　あれはチャオなのでしょうか。

(事務局)　すみません。そうしましたら、このデータが古いかもしれません。ちょっと
そこは確認してみます。

(師池委員)　本当、この三つしかない状態なのですよ。そうしたら、お土産系のこと
はアビオシティさん任せという感じなののでしょうか。加賀市としては。

(眞田部長)　加賀市として。

(師池委員)　特産を置くとかアンテナショップを置くということは、加賀市としては考
えていないのでしょうか。

(眞田部長)　いや。その辺も検討委員会でお諮りいただくという部分もございます。

(竹内委員)　糸魚川は、別なものを市でつくっていますよね。高架下に物産館みたいな。
ヒスイの大きい原石をどーんと置いて。僕は思いますが、この委員会はあまりお金のこと
を考えないで、夢を大きく。あと、やれる、やれないというのは、地元の本気と役所の本
気だと思いますから。今、何も夢のない、お金だけの形でこうだ、ああだと言っていたら、
全然そんな話が広がらない。さみしい話はあまりしないで、大きい夢を描いて、あとは現
実と向き合っていくというような。

(水野委員長)　そうですね。先ほどおっしゃった車で南北が通れるなんていう話はすぐできる話ではなくて、都市計画の問題から見れば10年、20年かかる話ですから。だけど、必要だということははっきりしているのなら、ちゃんと書いておきましょうということはあるわけですし、「こんなもの、入れられないよ」となってしまうと何もなくなってしまいます。

(長谷川委員)　確かに松任の駅が通っていけるようになったのは便利になりましたね。

(高橋委員代理)　あれもすごく白山市は苦勞していました。

(水野委員長)　あれは苦勞しているのと、決めるときも苦勞しました。21ページの糸魚川の駅の写真は、ぼってんみたいなのが付いていますが、私はこれは大反対しました。破碎帯の印です。フォッサマグナ。こんな破碎帯を絵にしまっていていいのか、不安にならないかと思って。

(高本次長)　確かに。

(水野委員長)　それは地元の人が「これでいく」ということでしたから、イメージとしてすごいな、強いなと思いましたがね。

(丸谷委員)　先ほどアビオの壁の塗り替えを提案という話がありましたが、今、この広場などを造るに当たって、温泉駅を降りて、その前に病院ができるあの辺までを駅前広場という感覚で捉えていただいて、ちょっと一歩出るとばらばらなのです。それこそ建物の形も。あの辺も何となく一体化するような雰囲気になるといいなと思いますが、そういう働き掛けというのもどうなのでしょう。

(眞田部長)　病院建設時には、駅から病院までの真っ直ぐな道路を景観軸として、ここを中心に、迎える方の第一印象、ファーストインプレッションで、そこを景観軸として大事にしてくださいという提言を受けていますので、それをもって、病院の方にも今、建設にも考慮して、それ以前の駅から県道までの間をどうするかという問題は、またガーデンシティで考えるか、何らかのお迎えするゲートとして考える必要があるという認識はしています。その辺も連携しながら、この駅舎と続く話なのですが、駅舎そのものの検討委員会ではないのですが、それにどうしても関連することなので。それも、今すぐに行えるのか、5年後に行えるか、10年後に行えるかというのは別ですが、提言があれば盛り込んでいただければありがたいと思います。

(竹内委員)　前の通りの建物の色を何か規制できるのか。黄色いカレーがあつたり。もう少し、消防とマルキのどこかその辺りまででいいから、ちょっと統一感があるなみたいな感じで、落ち着いた色で、あの通りからも白山が見えますから。それはもう役所の仕事

だからね。

(古場田委員) 今は駅舎を考えていくいいチャンスです。広げていって、そこまでに持っていけないといけない。すぐはできないけれど、それでもやはり計画は必要。そういう指導はしていかないとけない。

(眞田部長) 方向性として。

(古場田委員) そう。

(水野委員長) はい。今日は時間がだいぶたったのですが、駅前広場と駅周辺の話が集中して、駅本来はどんな駅が欲しいという話までいかなかったのですが、先ほどフォッサマグナの話をしました。上越では桜がずっとテーマでして、桜と山が見える駅を造ってくれというのはずっと言われていました。それを実現できたのですが、そういうのも含めて、駅本体についても運輸機構さんが設計されますので、それに対して少しでも何か付け加えていただくことができ、加賀温泉駅は他の駅と少し違うぞというものができればいいなと思っています。それについても、皆さん何かイメージを育てていただいて、次回に持ってきていただければと思います。時間が来ましたので、今日のところはわーっと広がってしまったのですが、これもいいのではないかと思います。次回は少し引き締めるかもしれませんが(笑)。よろしくをお願いします。

5. 閉会

(眞田部長) それでは、以上をもちまして本日の第1回の検討委員会を終わります、本当にありがとうございました。また次回等も含めて、よろしくをお願いします。本日はどうもありがとうございました。

(一同) お疲れさまでした。